

# まなびの森

校長通信 第15号 R3.1.7  
廿日市市立吉和小・中学校  
校長 森岡 勝司  
TEL(0829)77-2010

教育目標「夢や目標をもち、果敢に挑戦し、自己実現する児童生徒の育成」

## 2021年を迎えました！「休眠打破」を合言葉に前へ進もう！

新年あけましておめでとうございます！

年明け早々、寒い毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？昨年度の暖冬とは異なり、今日の吉和は吹雪です。私にとりましては吉和らしさを初体感することができ、ドキドキの毎日です。風邪などひかれませぬよう、手洗い、うがいと消毒を励行され、ご自愛ください。



さて、コロナ禍であるため、自宅で過ごす時間がずいぶんと長くなり、テレビを見る機会が増えたのは我が家だけではないと思っております。何よりも感動をしたのは恒例の箱根駅伝です。毎年、幾多のドラマを展開し、感動を与えているのは、襷(たすき)をつなぐ選手たちの思いであり団結の絆でしょうか。

今年は初の往路優勝を成し遂げた創価大学が、最終区の10区で、それも残り2km地点で駒澤大学にまさかの大逆転により初優勝を逃しました。誰もが優勝を信じて疑わなかっただけに驚きでした。最後まで優勝をあきらめなかった駒澤大学の石川選手は立派でした。私は無念のゴールをした小野寺選手に思わず拍手を送りましたが、ゴール寸前での日本テレビの森アナウンサーのコメントに思わず涙しました。

「初めての往路優勝がありました。初めての総合優勝には届かなかった。目標は総合3位でした。目標達成とみれば、うれしい準優勝。ただ、悔しい準優勝となったか。“3位で悔しい”と思えるチームになった。創価大学、準優勝！この悔しさを来年につなげます！」と。

また、同じチームには、進行性の病気である網膜色素変性症という病と闘っている選手が2名もいました。強い紫外線では視力を妨げるため、サングラスと帽子をかぶっての走りでした。昨年の大会時には、「同じ病気の人にも一歩を踏み出せる勇気を与えられたと思います。」と笑顔で語っていたのが印象的でした。ほんとに箱根駅伝に学ぶ点は多いです。吉和学園に集い合わせた私たちも、自分のひたむきな頑張り、家族や地域の人たちに希望と勇気を与えられるような一人一人でありたいものです。

元旦付け中国新聞朝刊に「私たちは、動く。」という大きな広告がありました。感動したので、その一節を紹介します。

「いまこそ動き出そう。動き出せば、風が生まれる。景色が変わる。あしたに近づく。新しい日常とは立ち止まることじゃない。新しいやり方で、新しい道を進んでいくことだ。」と。始業式では「休眠打破」を合言葉にと伝えました。次の学年へ向けての0学期の始まり。新しい自分を創りあげていくために、挑戦という努力を積み重ねていきましょう！